

議論の取りまとめにあたって

PI 外環沿線協議会 殿

平成16年9月2日
PI 外環沿線協議会
協議委員 秋山光男

外環の必要性と東名以南の計画について

2年間にわたって協議会に参加し、今回の取りまとめにあたり、意見をまとめました。必要性についての意見のひとつとして、反映して頂きたいと思います。

外環は、沿線地域のための道路というより、首都圏全体として必要な道路です。首都圏の交通の現状を考えれば多くの人が必要性を感じているはずです。首都圏全体として必要とされているときに、影響を受ける地域はどこまで受忍できるのか、また影響を受ける地域に対してどのように対応していくのかが重要です。

外環が従前の高架の計画であれば、地域に与える影響も極めて大きく、沿線地域として受忍の限度を超えているとして反対があったのは当然の事だと思います。

一方で、新しい計画は大深度地下方式となり、地上への影響が小さく、地域として受け入れられるものと考えます。

沿線住民としても、作られるのか作られないのか分からない状況がこれ以上続くことは誰も望んでいないと思います。利害を調整するのは国の役割であり、国は大所高所から結論を出すべき時期です。

そして建設に当たっては、環境への対策を十分に講じ、地域への影響を極力小さくし、移転が避けられない地域、あるいは地域社会の分断など、影響の大きい地域への配慮を十分に行い、沿線地域にとっても、後世の人々にとっても、出来て良かったと言われるような計画としていくことが必要だと考えます。

一方で、外環本線を東名から関越までつくればよいのではなく、練馬の問題として議論があったように、インターチェンジ周辺での関連道路の整備や、ま

ちづくり、また終点となる世田谷の問題も重要です。

外環が東名で終わりというのでは、終点となる世田谷では理解が得られません。東名までの区間が決まれば、次は第三京浜までの区間、または延伸が計画されている目黒通りまで、それが決まればさらにその先を検討する事を明確にすべきだと考えます。

協議会の2年間の議論は、「とりまとめ」にもあるとおり、一定の役割を果たしたと思います。しかし、協議会の皆様の考え方、あるいは協議会そのものが理解されていない面が多々あるように思えます。今後は、もっと広域で外環について知ってもらうためのPIや、建設を行う場合に地域で発生する課題などについて議論するPIが必要だと考えます。